

「クラブ富士山」 郷土料理「ほうとう」で炊き出し

山梨県クラブ育成アドバイザー 進藤芳昭

1 被災地の惨状に触れて

「クラブ富士山」（山梨県富士河口湖町）クラブマネジャーの赤池さんは、被災にあった友人を迎えに行くため、宮城県南部の沿岸にある岩沼市を訪れました。被災地の惨状を目の当たりにし、何かできることはないかと考えました。

避難生活を送っている人達からは、「物資はたくさんきているが仕分けの手が足りない。」、「食事はご飯にみそ汁、缶詰の生活が続いている。野菜が欲しい。」との声が聞かれました。地元へ戻り、クラブ会員に現地の状況を伝え、クラブとして支援活動への取り組みを呼びかけました。賛同を得て、支援内容とその具体化への検討がスタートしました。

2 支援への取り組み ～郷土料理「ほうとう」での炊き出し

野菜不足への対応のため、現地で炊き出しをすることになりました。メインメニューは郷土料理である、野菜たっぷり、みそ仕立てのほうとうが候補に上がりました。右の写真にある大釜は町の備品である防災釜がクラブに貸与されました。

取り組みを知った町民からは、活動のための支援金をはじめ、マイクロバスの提供、料理用水の提供、ほうとうで使うカボチャ・ジャガイモ等の野菜も寄せられ、支援の輪は着実に広がっていきました。出発前、女性会員は、寄せられた野菜を食べやすく切る等、食材を準備しました。



3 いよいよ現地へ

活動は昨年4月9～10日に第1回目を実施し、平成23年内に4回の炊き出しを行いました。野菜たっぷりのほうとうを中心に1日約600食を提供しました。現地のほとんどの方がほうとうは初めてでしたが、とても喜ばれました。



クラブ運営へボランティアスタッフとして参加している地元の健康科学大学の学生も、活動に加わりました。避難所では大学で勉強しているマッサージを行い、「身も心も軽くなった」と喜ばれました。また、子どもたちとも遊びました。おんぶをしたり、肩車をしたり、子どもたちはとても喜んでくれました。保護者からは、子どもたちとまた遊んで欲しいと期待され、来たるこの3月には合宿を兼ね現地入りする計画を立てています。

総合型地域スポーツクラブの新たな可能性が広がっています。

【クラブ富士山 プロフィール】

1. 設立

設立年：平成 22 年 2 月 23 日（富士山の日に設立）

経緯：町のスポーツ振興審議会にてクラブ創設の方針を決定した。設立準備委員会を組織し、町教育委員会担当が中心となり設立を推進した。

2. 地域

人口：富士河口湖町 26,156 人（平成 24 年 1 月現在）

特性：富士山・富士五湖エリア内の国際観光都市

3. クラブ

会員数：140 人（平成 24 年 1 月現在）

特徴：参加しやすい教室「あっと！ホームボディーケア」が新設された。
腰痛や肩こり等で悩んでいる人の症状改善方法を売りにしている。

予算規模：310 万円（会費等 210 万円、町補助 100 万円）

4. 連絡先

クラブ富士山事務局（町民体育会館内）

〒401-0301 山梨県南都留郡富士河口湖町船津 5542-1

TEL・FAX：0555-72-4772

URL：<http://www.town.fujikawaguchiko.lg.jp/>

関連リンク：進藤芳昭氏プロフィール

<http://www.japan-sports.or.jp/local/outline/adviser/15.html>